

話題を追う

東京穀物商品取引所のeコマース 上場商品の現物をネット取引

編集部

東京穀物商品取引所（東穀取）が5月から大豆、穀物など上場商品の現物取引をインターネットで始めました。名付けて「東穀eコマース」。まだ、始まったばかりで、もっぱら東穀取の会員が対象になっていますが、それ以外の当業者（＝その商品の生産流通にかかわっている企業）に枠を広げたい意向です。

東穀eコマースとは、東穀取が「中立・公正な現物マーケットの設立が使命」と考えて開設した現物取引市場です。現在、37社、端末にして42が参加しています。

このサイトのサービスは大きく見て3つあります。1つ目が取引市場システム、2つ目が見積販売システム、3つ目が情報システムです。

取引市場システムは現物取引市場のサイトのこと。現在、東穀取に上場している小豆、Non-GMO（遺伝子非組み換え）大豆、分別大豆、大豆ミール、コーヒー（アラビカ種とロブスタ種）、精製糖などをインターネットを使って取引します。

方法は商品、注文（売りか買いか）、数量、価格、受渡し場所などをネット上で提示、それに応じた企業と相対で取引する仕組みです。

この場合、匿名で取引でき、決済上で問題が起らないよう、東穀取が銀行保証もします。

見積販売システムは会員に受発注にかかわる作業を効率化するというものです。

情報システムは農産物の取引に必要な様々な情報を提供するものです。ここには気象情報、先物取引情報、市況情報、業界ニュース、特集記事など豊富なコンテンツを取りそろえています。特に気象情報は特定地点の現在の状況から過去の積算温度、予測、世界の気象状況など幅広い情報を取りそろえており、これだけでも当業者には大きな利用価値があるといえるでしょう。

「目下、助走段階」（松井光雄東穀取EC業務室担当次長）で、東穀取の会員を中心に地道に会員を増やそうとしています。ただ、取引は多くの企業が参加してこそ出会いのチャンスが増えます。それだけに「中心は東穀取の会員だが、それ以外の企業も参加してほしい」としています。これが成功すれば、先物取引に関係した新しい分野が切り開かれるといえるでしょう。興味のある方は東穀取（TEL03-3668-9095）へ。

